

道産木材安定供給に関する意見交換会 開催概要

日時 令和6年(2024年)11月1日(金)14時00分~15時15分
場所 TKP 札幌カンファレンスセンター北3条 6階6A(対面・オンライン)
出席者 会場37名、オンライン123名
次第 道産木材の安定供給に向けた地域課題や今後の対応方向について
内容

- ア 北海道水産林務部林務局林業木材課から資料説明
- イ 出席者からの主な発言内容は次のとおり

<森林資源>

- ・伐採量の増加見通しが示されたが、増加する造林面積はどれくらいか。
→(道回答)主伐と間伐の量を区分した試算をする必要があり、今後の精査が必要。
- ・伐採量の増加見通しの所管別割合は。
→(道回答)所管別の数字は、本日は持ち合わせていない。
- ・主伐上限量には、国有林も含まれているか。
→(道回答)主伐上限量は国有林も含んだ数字。地域森林計画に主伐上限量の指標が示されており、その計算式を準用し、民有林と国有林の数字を試算したところ。
- ・主伐上限量は、森林調査簿の資源量をもとに試算とのことだが、現場感覚として実際の資源量は、7掛けもしくは半分と感じている。今後はもう少し現実に近い形で数字を示していただきたい。
→(道回答)今回の試算では森林資源の6割を林業適地と仮定して主伐上限量として示した。森林調査簿の精度向上については、今後どのような対応ができるか検討していく考え。
- ・道内どの地域においても、伐採量は林業適地の主伐上限量に対して3~6割と下回っているため、資源的には原木供給量の不足の懸念はないと理解してよいか。
→(道回答)今回の試算では林業適地の主伐上限量に達しないという結果だが、特定地域に伐採が集中しないよう、森林資源のモニタリングを通じて状況を注視していかないといけないと認識。

<原木調達>

- ・新工場が使うトドマツの材質は、特に条件を選ばないとの報道。業界主導で棲み分けるかもしれないが、スナダヤは地域の製材工場に配慮して集荷するのか。
→(道回答)基本的に低質材を含めた集荷になると思われる。既存の道産木材の供給量の上乗せ分を集荷するとのことだが具体的な棲み分けについては把握していない。今後の情報収集が必要。

<新会社の製品の影響>

- ・新工場が稼働すれば、そこで製造された製品が道内にも増えていくことになる懸念について、道はどのように考えるのか。
 - （道回答）新工場では集成管柱やツーバイ材を道外向けに生産する計画。主要なマーケットは首都圏と聞いており、道内への製品流通は限定的になるという見解もある。
厳しい環境下でも道内の工場がツーバイ材をハウスメーカーに供給する取組など、道産建築材の供給力向上が進んでいると考えるため、道としては今後の状況を注視し、業界の方々と連携して対策を検討していく。
- ・木材産業の競争力強化としているが、今以上に競争力を高めていくということか。これからの北海道の林業をどうするのか。川上から川下まで、どのように循環させていく考えか。
 - （道回答）新工場の稼働により急激な木材の需給バランスに変化が生じれば、これまで道産木材の有効利用の取組を支えてきた既存工場の原木調達等、森林資源の持続的な利用に影響を及ぼす可能性があると考えている。既存製品との競合の有無を今後精査するとともに、既存工場の生産性を上げる等の検討が必要と考えており、今後も意見交換を行いながら進めていきたい。

<担い手対策>

- ・今後主伐が増え、造林未済地が増えていくのは困る。造林の作業員が減少している中、どのようにして造林未済地を増やさないようにしていく考えか。
 - （道回答）担い手の育成・確保を進めていく必要があり、北森カレッジでの取組や、地元高校への働きかけ、さらには、機械化による効率化も必要と認識しており、今後も各地域の関係者と意見交換しながら、スナダヤにも造林の話を伝えたい。

<その他>

- ・新工場による影響が出ると思っているのが不安を感じている。川上から川下までの循環型林業を回していくことができる施策とともに、これからも情報提供をお願いしたい。
 - （道回答）既存業界に影響を与えないよう対応を検討し、ご意見を踏まえて対応していきたい。
- ・対応の方向に関して、現時点で決定している詳細な事項はあるのか。
 - （道回答）今後の対応について、既存事業の継続だけでなく取組の強化も必要。関係者や今回の意見交換会でいただいたご意見を踏まえ、どのような方向で対応していくか検討していく。